

第87回 『津軽海峡……』までの石川さゆりの臥薪嘗胆

世に知られた「花の中三トリオ」ですが、デビューは、森昌子が昭和47年7月、桜田淳子が翌48年2月、山口百恵が同年5月でした。

ホリプロの堀社長は、すでに入社していた1学年上の石川さゆりに昌子、淳子を加えた「ホリプロ三人娘」を構想していましたが、淳子のサンミュージック入りでその思惑は外れます。しかし、百恵のホリプロ入社で、所属事務所を越えた「中三」という「同学年トリオ」が誕生、別の花が開くことになりました。

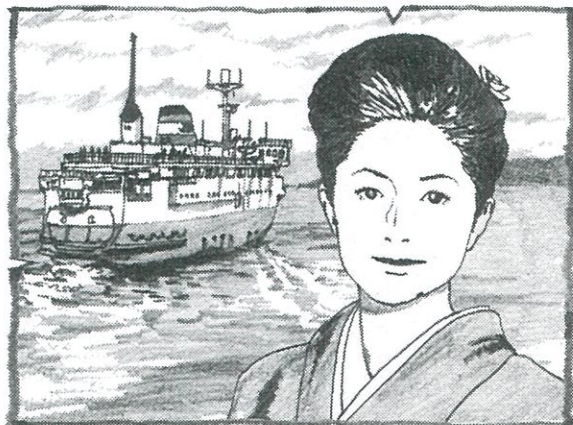
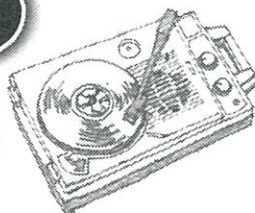
同年のくくりから外れた石川さゆりは、レコード・デビューの翌月に封切られたホリプロ製作の松竹映画『としごろ』に昌子、百恵とともに三人娘の一人として出演します。以前にもご紹介したこの作品は、ホリプロ所属タレントのPRが目的で、劇中で和田アキ子は5年前のデビュー曲『星空の孤独』と新曲『私は歩いてる』を歌い、早々と人気歌手の仲間入りを果たしていた森昌子も『せんせい』と『中学三年生』を披

露しています。映画公開時にはすでにデビューしていた石川さゆりですが、デビュー

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも

堀井六郎
絵・松本 浦



曲『かくれんぼ』は挿入歌としても扱われず、15歳になった彼女が映画の中で演じた「中学三年生の淳子」という役は、あろうことかチンピラ数人にレイプされたあげく妊娠し、男子同級生と入水自殺してしまうという、映画館を訪れた観客の期待とはあまりにもかけ離れたものでした。レイプシーンでは乳首までアップで映されていて、大人が見れば吹き替えるの別人だと判断できますが、本人の演技だと信じた未成年の観客もいたはずで、ショッキングな映像だったことは想像に難くありません。デビュー前にはまだ小学生の身でありながら牛乳配達で家計を助けた根性

娘のさゆりさんですが、15歳の胸の奥には役割に対して釈然としない気持ちで渦巻いていたことでしょう（私の家は森永牛乳をとっていましたが、彼女や山田太郎のような未成年者の配達員は見かけませんでした）。

デビューからヒットに恵まれず3年半ほど経過した頃、LP『365日恋もよう』に収録されていた中の1曲が評判となり、昭和52年元旦付でシングルカット、『津軽海峡・冬景色』と題されたこの曲が大ブレイク、続く『能登半島』『暖流』との旅情三部作で彼女の人気は定着します。同年3月に解散した「同学年トリオ」を横目に、かつて味わった悔しさを歌の中の情念へと昇華させているかのごとく歌う、存在感ある歌手へと成長していきます。

彼女が愛読した『長距離走者の孤独』の主人公と自らを重ねつつ、生まれ故郷の熊本から一家で上京してから半世紀。屈辱の映画出演とともにデビューしてからの数年間は差が広がるばかりだった「同学年トリオ」のうちの二人は芸能界を去り、残っていた森昌子も引退を発表、気がつけば彼女は、和田アキ子を抜き、女性として紅白歌合戦出場回数歴代ナンバーワン歌手となっていました。